

第29回 教育研究評議会議事要旨

日 時：平成18年4月12日（水）13：30～15：52

場 所：事務局 第1会議室

出席者：25名（欠席者1名）

議事に先立ち、学長から、新構成員の紹介があった。
また、事務局長から、新任部課長の紹介があった。

第28回 教育研究評議会 議事要旨について

学長から、議事要旨（案）のとおり確認された旨報告があった。

議 題

1 学則・規則の改正について

事務局長から、資料1-1から1-3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

2 教員の選考について

中村 経営情報系長から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、第340回教授会（教授）に付議することを了承した。

3 教員選考委員会の設置について

植松 物質・材料系長から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、第340回教授会（教授）に付議することを了承した。

4 名誉教授の選考について

学長及び該当系長から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、第340回教授会（教授）に付議することを了承した。

5 学長選考会議構成員の選出について

学長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

教授会審議事項の報告

1 学位論文審査付託に係る審査委員の指名について

学長から、資料6-1から6-2に基づき、第340回教授会（教授、助教授及び講師）で審議される旨の報告があった。

報 告

1 平成17年度実施 大学機関別認証評価の報告について

西口副学長から、資料7に基づき報告があった。
また、平成18年度は「研究活動状況」について受審する予定である旨、併せて報告があった。

2 開学30周年記念事業実行委員会の部会委員について

丸山理事から、資料8に基づき報告があった。

- 3 平成 17 年度 兼業許可状況について
総務課長から、資料 9 に基づき報告があった。
- 4 人材育成関係等の提案公募事業について
丸山理事から、資料 10 に基づき報告があった。
- 5 外部研究資金の受入状況について
研究推進課長から、資料 11 に基づき報告があった。
- 6 平成 17 年度 知的財産活動報告について
- 7 三条信用金庫との産学連携協力協定の締結について
川崎理事から、上記 6 及び 7 について、資料 12 及び 13 に基づき報告があった。
- 8 学生の除籍について
宮田副学長から、資料 14 に基づき報告があった。
- 9 平成 18 年度入学状況について
入試課長から、資料 15 に基づき報告があった。
- 10 学生数及び学生異動について
学務課長から、資料 16 に基づき報告があった。

また、高田 電気系長から、新入生合宿研修で行った「大学院修士課程への進学意向調査」で、進学希望者の割合が低い結果が出た旨の報告があり、引き続き、各系の状況等について意見交換が行われた。

- 11 大学教育の国際化推進プログラムの採択について
学長から、資料 17 に基づき報告があった。
- 12 学術交流協定の締結について
石崎副学長から、資料 18 に基づき報告があった。
- 13 委員会報告
 - (1) 教務委員会
 - ①大学院学生の研究指導の委託について
宮田副学長から、資料 19 に基づき報告があった。
- 14 その他
 - (1) 情報基盤推進本部からの報告について
川崎理事から、資料 20 に基づき、次の事項について報告があった。
 - ①総合研究棟 3 階：学生自習用パソコン室の機器及び利用時間の拡充について
 - ②ファイル交換ソフト（ウィニー及びシェア）使用の自粛について

なお、川崎理事から、前記②については、第 340 回 教授会（教授、助教授

及び講師)において、湯川 助教授(情報基盤推進本部連絡会議委員)が説明する旨、併せて報告があった。

(2) 西口副学長から、学部及び修士課程における「入学定員」、「現員」及び「過不足状況」を把握できる資料の作成方要請があった。

(3) 学長から、平成19年度概算要求について、「センターの改組(例えば、医用工学、人間工学など新たな構想に基づくもの)」、「教育組織名称等の変更」並びに「博士後期課程及び専門職大学院の拡充」等について検討したい旨の説明があった。

(4) 構成員から、学内の情報基盤・情報管理の一層の一元化・共有化を推進すべきではないか。これに伴って、教職員の業務負担の軽減も図られるとの意見があった。

これについて、学長から、業務負担が大きいことは大学の特徴でもあるので、各系でも工夫して、円滑に業務が遂行できるよう協力してほしい旨、また、西口副学長から、教員個人の教育研究活動等のデータベース化などを進めていること、及び川崎理事から、情報基盤の一元化、共有化の推進に努めているところであるが大学基幹業務システムで不十分のところがあったことは否めないことの説明があった。

以 上